

DataSpider Servista

SEKISUI

積水ポリマテック株式会社

電子機器や車載機器など精密機械に搭載する付加価値の高いポリマー加工製品を提供。顧客の要望に基づいて製品開発を行う受注生産を強みに、グローバルに拠点を展開し、積水化学グループにおけるカーエレクトロニクス領域への事業拡大に貢献しています。

所在地：埼玉県さいたま市桜区田島8-10-1
設立：1947年12月
資本金：9億9005万円
従業員数：2,373名（2019年3月期連結ベース）
URL：https://www.polymatech.co.jp/

（取材日：2021年3月）

POINT

SAPと周辺システムとの連携により、
タイムリーな経営状況の
可視化を実現 **1**

将来的なシステム統合を視野に、
汎用的なツールによる柔軟な
データ連携環境を整備 **2**

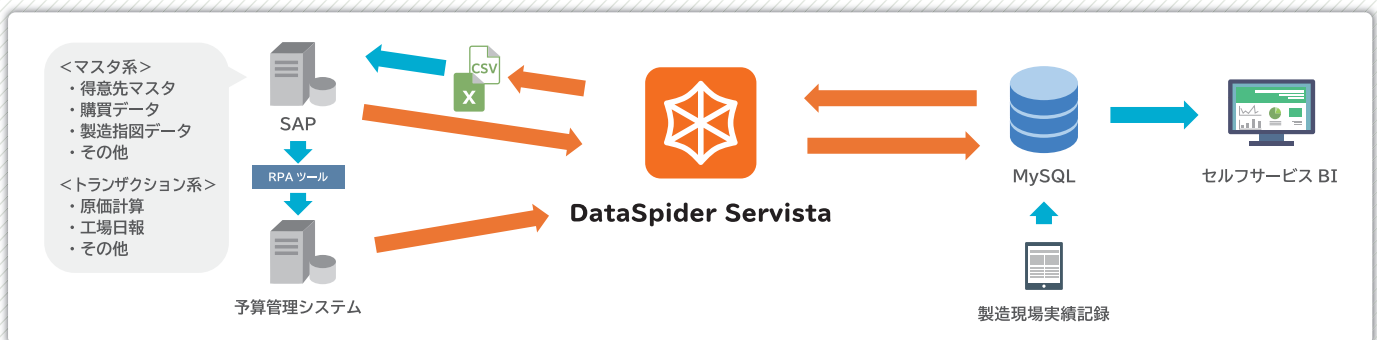
クラウドサービスとの連携や
AI活用を見据えた用途の
広がりにも期待 **3**

経営情報の可視化に必要な
情報活用基盤。SAPとの連携による
タイムリーな予実管理を実現

電子機器や車載機器向けに付加価値の高いポリマー加工製品を提供している積水ポリマテック。同社では、基幹システムであるSAPを活用したタイムリーな予実管理を実現するための仕組み作りには不可欠なデータ連携基盤としてDataSpider Servista（以下、DataSpider）を採用。グローバルな経営状況の可視化を実現するとともに、社内のシステムをつなぐデータ連携の中核として活用しています。

課題	対策	効果
<ul style="list-style-type: none"> ■ グローバルな拠点を連結した経営状況のタイムリーな可視化 ■ RPAツール利用時のロボット作成の手間や、エラー対応など運用面の負荷軽減 ■ クラウドサービスとの連携も可能な汎用的なデータ連携基盤の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 汎用的なツールを活用し、特別なスキルに依存しないデータ連携手法を選択 ■ 連携可能なデータの種類の豊富なDataSpiderを導入 ■ アシストの支援サービスを活用し、業務に即したデータ連携基盤を整備 	<ul style="list-style-type: none"> ■ タイムリーな予実管理の仕組みを構築し、経営状況の可視化を実現 ■ 業務現場からの要望にもスピーディに対応可能な環境を整備 ■ クラウド社会に対応するために必要不可欠な情報活用環境を構築

システムの構成イメージ



DataSpider Servista

グローバルに展開する拠点を 連結し、経営状況を可視化する 仕組みが求められていた

電子機器や車載機器など精密機械に搭載する付加価値の高いポリマー加工製品の開発、製造および販売を行う積水ポリマテック。車載用のリチウムイオンバッテリーに対する放熱処理など、電子機器の熱対策や電磁波対策をはじめ、ポリマー素材に対する知識や経験を活かした各種ソリューションを提供しています。顧客の要望に基づいて製品開発を行う受注生産が中心で、グローバルなエリアに拠点を展開しています。

同社では、ガバナンス強化とグローバル展開する拠点の経営状況を可視化するため、基幹システムとしてSAPを導入しています。しかし、各拠点を連結するためには、連結決算システムの導入や新たなシステム開発が必要になります。そこで、SAPの実績情報をMySQLに集約し、予実管理システムと連携した結果をBIツールで可視化する環境の整備を進めていました。SAPのデータ抽出にはRPAツールを活用していたものの、そこには多くの課題が存在していた、と経営管理本部システム企画課 課長 森山 啓氏は振り返ります。

森山氏 SAPから抽出したデータだけでなく、業務現場で作成された部門別、商品群別といったExcelシートが多数存在しており、これらのデータもRPAツールを活用して集計し、正規化しようという構想が当初からありました。しかし、RPAツールではロボット開発の手間やエラー発生時のリカバリー対応など、運用面での負担が大きいことから、新たな仕組みを模索することになりました。

クラウドサービスをはじめ、 幅広い用途でのデータ連携が 期待できるDataSpiderに注目

2017年に積水化学グループの一員となった同社では、将来的なシステム統合も見据え、プログラム開発による独自の仕組みを構築するよりも、汎用的なツールを使って柔軟にデータを連携できる環境作りが求められていました。そこで注目のDataSpiderでした。

森山氏 それまではEDIを利用してSAPとの連携など特定の用途に特化したデータ連携を行っていました。新たな仕組みの導入にあたっては、クラウドサービスとの連携も視野に、特別なスキルに依存することなく誰もが使いこなせる柔軟性の高いデータ連携ツールが必要だと考えていました。

そこでたどり着いたのがDataSpiderだったので。

アシストから初めて提案を受けてからまもなく、トライアル環境を整備してもらいました。試行できる環境が迅速に用意されたことで、当社における様々な活用イメージをより膨らませることができました。導入前にも関わらず、問い合わせにも十分に対応いただけるなど、サポートが手厚かったことも安心に繋がりました。

豊富なアダプタを持つDataSpiderだけに、クラウドサービスも含めた多種多様なデータに連携可能な点も高く評価しました。

森山氏 セキュリティ対策の観点から通信機器や出退勤のログなどを集約する用途や、インフラの故障予測といった機械学習のためのデータ収集の仕組みにも応用できると感じました。今後、データやシステムの繋ぎ先がますます増えることを考えた時に、DataSpiderがデータ連携の基盤として最適だと判断したのです。

DataSpiderが経営情報の可視化 に欠かせないデータ連携の中核に

導入後はアシストが提供するスキルトランスファー型の導入支援サービスやサポートセンターを活用することで、DataSpiderに関する開発や運用のノウハウを蓄積。現在は予実管理に必要なSAPのマスターデータをMySQLにロードする処理を中心に、SAPに投入する製造現場の稼働実績データの抽出などにDataSpiderを活用しています。一連の仕組みの開発で中心的な役割を担う趙 笑冬氏は次のように語ります。

趙氏 データ連携の仕組みを開発しはじめた当初は、フロー設計やマッピングに苦労することもありました。しかし、わかりやすいサンプルの提供や質問に対する迅速な回答といったアシストの手厚いサポートがあったことで、現在では順調に運用できています。

また、運用マニュアルを作成する上でも、アシストのサポートは有効だったと村端 英樹氏は指摘します。

村端氏 サーバの稼働確認や状況監視に必要なログの見方などに関するレクチャーはマニュアル作成時に大いに役立っており、運用時のエラーチェックに効果を発揮しています。

データ処理に関する信頼性の観点から、廣畑 大輔氏は次のように語ります。

廣畑氏 RPAツールを使ってデータを抽出する場合、処理の途中で停止してしまうケースがしばしば発生します。その点DataSpiderはデータ連携の仕組みさえ作ってしまえば、データを確実に取得する信頼性は非常に高いと感じています。

DataSpiderの活用なくして、経営情報の可視化は実現できなかったと森山氏は振り返ります。

森山氏 BIツールによる経営情報の可視化を実現する上で、データ連携基盤としてのDataSpiderの存在は欠かせないものでした。様々なシステムのデータを結合して可視化する際に、その都度手作業でデータを取得してくるような運用は現実的ではありません。また、業務現場からのデータ活用に関する要望は日々増加していますが、DataSpiderがあることでスピーディに対応できる環境を整備できたことも、大きなメリットです。

クラウド社会に欠かせない 存在としてさらなる活用に期待

今後については、EDIシステム刷新のタイミングでの活用や、RPAツールで実施しているSAPからのデータ抽出処理の中で、DataSpiderに適した処理を置き換えるなど、活用の用途をさらに広げていく方針です。また、クラウドサービスとの連携やAI活用に向けた環境作りにも、DataSpiderを活用していきたい考えです。

森山氏 現在はSAPとの連携が中心ですが、当社で利用中のクラウドサービスとの連携や、インフラの故障リスク予測といったAI活用におけるデータ活用なども視野に入れており、まさにクラウド社会に対応するために必要不可欠な道具と言えるでしょう。DataSpiderの活用にあたり、我々のメンバーとアシストは、非常に良いチームワークでした。IT業界では次々と新しいソリューションやサービスが登場しているため、うまくキャッチアップしながら良いものは取り入れていきたいと考えています。DataSpiderはもちろんですが、様々なソリューションを提供可能なアシストだけに、これからも積極的な提案を期待しています。

<取材協力>

経営管理本部 経営管理部 システム企画課

課長	森山 啓 氏
専任課長	趙 笑冬 氏
主任	廣畑 大輔 氏
主任	村端 英樹 氏